

四半期報告書

(第67期第2四半期)

自 平成24年12月1日

至 平成25年2月28日

大阪市中央区博労町二丁目3番9号

ヤマト インターナショナル株式会社

E00600

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	3
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	7
1 株式等の状況	7
(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	7
(4) ライツプランの内容	7
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(6) 大株主の状況	8
(7) 議決権の状況	9
2 役員の状況	10
第4 経理の状況	11
1 四半期連結財務諸表	12
(1) 四半期連結貸借対照表	12
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	14
四半期連結損益計算書	14
四半期連結包括利益計算書	15
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16
2 その他	20
第二部 提出会社の保証会社等の情報	21

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年4月12日
【四半期会計期間】	第67期第2四半期（自 平成24年12月1日 至 平成25年2月28日）
【会社名】	ヤマト インターナショナル株式会社
【英訳名】	YAMATO INTERNATIONAL INC.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 盤若 智基
【本店の所在の場所】	大阪市中央区博労町二丁目3番9号
【電話番号】	大阪（6267）7382番（ダイヤルイン）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営企画室長 安栗 清
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区平和島五丁目1番1号
【電話番号】	東京（5493）5629番（ダイヤルイン）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営企画室長 安栗 清
【縦覧に供する場所】	ヤマト インターナショナル株式会社 東京本社 （東京都大田区平和島五丁目1番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第66期 第2四半期連結 累計期間	第67期 第2四半期連結 累計期間	第66期
会計期間	自平成23年 9月1日 至平成24年 2月29日	自平成24年 9月1日 至平成25年 2月28日	自平成23年 9月1日 至平成24年 8月31日
売上高（千円）	12,358,411	12,774,488	23,478,193
経常利益（千円）	756,972	827,089	1,156,132
四半期（当期）純利益（千円）	392,707	447,923	492,367
四半期包括利益又は包括利益 （千円）	536,724	904,622	515,563
純資産額（千円）	21,115,092	21,612,963	20,900,246
総資産額（千円）	30,873,953	31,395,798	28,280,450
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	18.43	21.02	23.10
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	68.4	68.8	73.9
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	1,891,350	2,260,272	667,080
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	△295,964	△110,577	147,596
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	△178,618	△86,474	△460,598
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（千円）	9,582,533	10,605,905	8,516,897

回次	第66期 第2四半期連結 会計期間	第67期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 12月1日 至平成24年 2月29日	自平成24年 12月1日 至平成25年 2月28日
1株当たり四半期純利益金額 （円）	8.18	6.33

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政権交代に伴う経済政策への期待から、為替・株価が好転し、一部では景気回復に明るい兆しも見え始めましたが、欧州経済の停滞や中国をはじめとした新興国の成長鈍化等、世界経済の回復は不安定であり、依然として予断を許さない状況となっております。

当業界におきましては、平成24年11月の気温低下により防寒衣料の販売が堅調に推移いたしました。天候不順の影響や消費者心理の冷え込み等、先行き不透明な市場環境となっております。

このような経営環境の中、当社グループでは、基本方針である「時代に合った顧客が求めるカジュアルスタイルの提案」を念頭に、「先10年戦える“小売型アパレル”への転換」を新たな中長期目標として掲げ、全社における考え方・価値観を統一し、収益性・成長性・具体性が見込める事業の強化に注力してまいりました。

販売面では、「クロコダイル」の既存事業部を「直営部」「東京営業部」「大阪営業部」「商品企画部」に再編成し、直営店ビジネスの強化やメンズ・レディースの運営効率化に取り組んでまいりました。また、平成24年12月には新業態となる「crocodile tokyo（クロコダイル トーキョー）」の第1号店を東京・表参道に出店する等、当社最大の基幹ブランドである「クロコダイル」の新たな展開を図ってまいりました。

自主管理型売場の店舗数は前期末より純増で2店舗増加し、858店舗となりました。海外（中国）にて展開中の1店舗を含めると、総店舗数は859店舗となり、順調に推移しております。

また、重要事業であるeコマース事業につきましては、前期末より開始したスマートフォン対応サイトが堅調に推移しており、今後も更なる事業内容の拡充を図ってまいります。

なお、不動産賃貸事業につきましては、引き続き東京本社ビル及び日本橋ビル等、自社物件の有効活用に努めております。

経費面では、諸業務の効率化をはじめ、生産拠点を東南アジアにシフトし、生産コストの削減を図る等、より一層の「ローコスト経営」を徹底してまいります。

一方、当社グループの物流業務を請負う子会社ヤマト ファッションサービス株式会社では、在庫管理や入出荷業務の精度向上に注力し、また布帛シャツ及びアウター等の製造を行う上海雅瑪都時装有限公司では、品質の向上と生産ラインの効率運営の強化を図ってまいりました。なお、中国国内販売を行う可似家商貿（上海）有限公司では、中国におけるビジネスモデル確立に向け、日々努力しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における連結業績は、売上高が127億7千4百万円（前年同期比3.4%増）と増収になりました。利益面では売上総利益率は49.0%と0.4ポイント上昇し、営業利益は7億7千万円（前年同期比6.2%増）、経常利益は8億2千7百万円（前年同期比9.3%増）、四半期純利益は4億4千7百万円（前年同期比14.1%増）と増益になりました。

セグメントごとの売上高では、繊維製品製造販売業126億7千9百万円（前年同期比3.6%増）、不動産賃貸事業9千4百万円（前年同期比20.3%減）となりました。

（2）財政状態の分析

①流動資産

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は170億円となり、前連結会計年度末と比べ30億4千9百万円増加いたしました。主な要因は、有価証券の増加21億7千4百万円、商品及び製品の増加5億5千8百万円であります。現金及び預金と有価証券を合わせた手元流動性資金は89億8千9百万円から22億9千万円増加し112億8千万円となりました。受取手形及び売掛金の残高は4千9百万円増加し、21億2千7百万円となりました。

②固定資産

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は143億9千5百万円となり、前連結会計年度末と比べ6千5百万円増加いたしました。主な要因は、投資有価証券の増加1億8千8百万円、差入保証金の増加4千4百万円、繰延税金資産の減少1億5千5百万円であります。

③流動負債

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は82億8千6百万円となり、前連結会計年度末と比べ23億4千5百万円増加いたしました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加21億2千4百万円、未払法人税等の増加2億4千8百万円であります。

④固定負債

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は14億9千6百万円となり、前連結会計年度末と比べ5千6百万円増加いたしました。主な要因は、長期借入金の増加6千6百万円であります。

⑤純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は216億1千2百万円となり、前連結会計年度末と比べ7億1千2百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金の増加2億5千6百万円、その他有価証券評価差額金の増加3億6百万円、繰延ヘッジ損益の増加4千1百万円、為替換算調整勘定の増加1億8百万円であります。これらの結果、自己資本比率は前連結会計年度末の73.9%から5.1ポイント低下し、68.8%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ20億8千9百万円増加し、106億5百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは22億6千万円の収入（前年同期は18億9千1百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益7億6千3百万円に加え、仕入債務の増加21億1千9百万円及びたな卸資産の増加6億6千万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億1千万円の支出（前年同期は2億9千5百万円の支出）となりました。これは主に、有価証券、投資有価証券の売却及び償還による収入2億円、有形固定資産の取得による支出1億6千8百万円及び投資有価証券の取得による支出1億2百万円、差入保証金の差入による支出8千5百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、8千6百万円の支出（前年同期は1億7千8百万円の支出）となりました。これは主に、長期借入による収入2億円、配当金の支払額1億9千1百万円及び長期借入金の返済による支出9千1百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

①当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

②会社の財務及び事業方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

(a) 基本方針の内容

上場会社である当社の株式は、株主、投資家の皆様による自由な取引が認められており、当社の株式に対する大規模買付提案またはこれに類似する行為があった場合においても、一概に否定するものではなく、最終的には株主の皆様の自由な意思により判断されるべきであると考えます。

しかしながら、近年わが国の資本市場においては、対象となる企業の経営陣の賛同を得ずに、一方的に大規模買付提案またはこれに類似する行為を強行する動きが顕在化しております。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、当社の企業理念、企業価値のさまざまな源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保・向上させる者でなければならないと考えております。従いまして、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大規模買付提案またはこれに類似する行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

(b) 不適切な支配の防止のための取組み

企業価値ひいては株主共同の利益の中長期的な向上または確保を目指す当社の経営にあたっては、幅広いノウハウと豊富な経験、並びに顧客、従業員及び取引先等のステークホルダーとの間に築かれた関係等への十分な理解が不可欠です。これら当社の事業特性に関する十分な理解がなくては、株主の皆様が将来実現することのできる株主価値を適切に判断することはできません。突然大規模買付行為がなされたときに、大規模買付者の提示する当社株式の取得対価が当社の本源的な企業価値と比べて妥当か否か、を株主の皆様が短期間の内に適切に判断するためには、大規模買付者及び取締役会の双方から必要かつ十分な情報が提供されることが不可欠であり、当社株式をそのまま継続保有することを考える株主の皆様にとっても、大規模買付者が考える当社の経営に参画したときの経営方針や事業計画の内容等は、その継続保有を検討するうえで重要な判断材料であります。同様に、取締役会が当該大規模買付行為についてどのような意見を有しているのかも、株主の皆様にとっては重要な判断材料となると考えます。以上のことから、当社取締役会は大規模買付行為が一定の合理的なルールにしたがって行われることが、企業価値ひいては株主共同の利益の向上または確保に合致すると考え、大規模買付行為がなされた場合における情報提供等に関する一定のルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を設定するとともに、前述の会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって大規模買付行為がなされた場合には、それらの者によって当社の財務及び事業の決定が支配されることを防止するための取組みとして対抗措置を含めた買収防衛策（以下「本プラン」といいます。）を導入しております。

<当社株式の大規模買付け行為への対応策（買収防衛策）の概要>

本プランは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、または結果として特定株主特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為を対象とします。

本プランにおける、大規模買付ルールとは、①事前に大規模買付者が当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、②必要情報の提供完了後、対価を現金のみとする公開買付による当社全株式の買付けの場合は最長60日間、またはその他の大規模買付行為の場合は最長90日間を当社取締役会による評価・検討等の取締役会評価期間として設定し、取締役会評価期間が経過した後大規模買付行為を開始する、というものです。

本プランにおいては、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置はとりません。ただし、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合、大規模買付ルールを遵守しても当該大規模買付行為が会社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、必要かつ相当な範囲で新株予約権の無償割当等、会社法その他の法律及び当社定款上検討可能な対抗措置をとることがあります。このように対抗措置をとる場合、その判断の合理性及び公正性を担保するために、取締役会は対抗措置の発動に先立ち、当社の業務執行を行う経営陣から独立している社外監査役並びに社外有識者の中から選任された委員で構成する独立委員会に対して対抗措置の発動の是非について諮問し、独立委員会は対抗措置の発動の是非について、取締役会評価期間内に勧告を行うものとします。当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとします。

本プランは、平成24年11月22日開催の当社第66回定時株主総会において株主の皆様のご承認を賜り継続し、その有効期限は平成27年11月に開催予定の定時株主総会終結の時までとなっております。

本プランの詳細につきましては当社インターネットホームページ (<http://www.yamatointr.co.jp/>) をご参照ください。

(c) 不適切な支配の防止のための取組みについての取締役会の判断

本プランは、会社支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みであり、以下の点から、当社役員の地位維持を目的としたものではなく当社の企業価値ひいては株主共同の利益をそこなうものではないと考えております。

(ア) 買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性の原則）を充足しています。

また経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」の内容も踏まえたものとなっております。

(イ) 株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること

本プランは、当社株式に対する大規模買付行為等がなされた際に、当該大規模買付行為等に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保し、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって継続したものです。

(ウ) 合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、あらかじめ定められた合理的な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みが確保されています。

(エ) 独立性の高い社外者の判断の重視

本プランにおける対抗措置の発動等に際しては、独立している社外者のみで構成される独立委員会へ詰問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するよう、本プランの透明な運営を担保するための手続きも確保されています。

(オ) 株主意思を反映するものであること

本プランは、定時株主総会における株主の皆様のご承認を条件に、継続されたものであり、その継続について株主の皆様のご意向が反映されております。また、本プラン継続後、有効期間中であっても、当社株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、株主の皆様のご意向が反映されます。

(カ) デッドハンド型買収防衛策やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される当社取締役会により廃止することができるものとされており、当社の株式を大量に買付けた者が、当社株主総会で取締役を指名し、かかる取締役で構成される当社取締役会により、本プランを廃止することが可能であり、デッドハンド型買収防衛策ではありません。また、当社の取締役任期は1年であり、期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策でもありません。

(5) 研究開発活動

特に記載すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	71,977,447
計	71,977,447

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数 (株) (平成25年2月28日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年4月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	22,502,936	22,502,936	東京証券取引所 大阪証券取引所 (各市場第一部)	完全議決権株式で あり、権利内容に 何ら限定のない当 社における標準と なる株式であり、 単元株式数は100 株であります。
計	22,502,936	22,502,936	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
平成24年12月1日～ 平成25年2月28日	—	22,502,936	—	4,917,652	—	1,229,413

(6) 【大株主の状況】

平成25年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
セネシオ有限会社	東京都港区白金台2-27-9-207	2,600	11.55
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	1,061	4.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	954	4.24
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命証券管理部内	717	3.19
盤若 智基	東京都港区	575	2.55
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	517	2.29
野村信託銀行株式会社(投信口)	東京都千代田区大手町2-2-2	398	1.77
藤原 美和子 (常任代理人 セネシオ有限会社)	Khan Chamcarmon, Phnom Penh, Cambodia (東京都港区白金台2-27-9-207)	374	1.66
盤若 真美	東京都品川区	353	1.56
株式会社大林組	東京都港区港南2-15-2	330	1.46
計	—	7,883	35.03

(注) 1. 上記のほか、自己株式が1,196千株あります。

2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 954千株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 517千株

野村信託銀行株式会社(投信口) 398千株

3. スパークス・アセット・マネジメント株式会社から、平成23年10月18日付で大量保有報告書の変更報告書の提出があり、平成23年10月14日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社として当第2四半期会計期間末日現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は、次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
スパークス・アセット・マネジメント株式会社	東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎	905	4.03
計	—	905	4.03

4. シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社から、平成24年10月22日付で大量保有報告書の変更報告書の提出があり、平成24年10月15日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社として当第2四半期会計期間末日現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は、次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社	東京都千代田区丸の内1-5-1	886	3.94
計	—	886	3.94

5. 株式会社三菱東京UFJ銀行及びその共同保有者4社から、平成24年10月29日付で大量保有報告書の変更報告書の提出があり、平成24年10月22日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社として当第2四半期会計期間末日現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況は株主名簿によっております。

なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は、次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	1,061	4.72
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	399	1.78
三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	33	0.15
カブドットコム証券株式会社	東京都千代田区大手町1-3-2	22	0.10
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内2-5-2	113	0.50
計	—	1,630	7.25

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年2月28日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 1,196,100	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 21,250,500	212,505	—
単元未満株式	普通株式 56,336	—	—
発行済株式総数	22,502,936	—	—
総株主の議決権	—	212,505	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が4,000株 (議決権の数40個) 含まれております。

②【自己株式等】

平成25年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 （%）
ヤマト インターナショナル(株)	大阪市中央区博労町二丁目3番9号	1,196,100	—	1,196,100	5.31
計	—	1,196,100	—	1,196,100	5.31

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年12月1日から平成25年2月28日）及び第2四半期連結累計期間（平成24年9月1日から平成25年2月28日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,750,777	3,866,881
受取手形及び売掛金	2,077,912	2,127,824
有価証券	5,239,185	7,413,845
商品及び製品	2,431,369	2,990,353
仕掛品	62,561	87,891
原材料及び貯蔵品	23,004	139,298
繰延税金資産	145,154	133,149
その他	221,287	241,568
貸倒引当金	△218	△219
流動資産合計	13,951,035	17,000,592
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,578,668	2,547,019
機械装置及び運搬具（純額）	33,092	37,854
土地	7,931,184	7,931,184
リース資産（純額）	11,901	15,871
建設仮勘定	—	15,635
その他（純額）	73,324	81,145
有形固定資産合計	10,628,171	10,628,711
無形固定資産	138,736	132,057
投資その他の資産		
投資有価証券	1,859,977	2,048,444
差入保証金	1,320,451	1,365,073
繰延税金資産	286,992	131,909
その他	137,351	109,173
貸倒引当金	△42,266	△20,162
投資その他の資産合計	3,562,506	3,634,438
固定資産合計	14,329,415	14,395,206
資産合計	28,280,450	31,395,798

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,986,326	6,110,907
1年内返済予定の長期借入金	700,030	742,370
未払法人税等	98,636	346,914
賞与引当金	116,620	107,962
返品調整引当金	29,000	30,000
ポイント引当金	101,291	104,144
資産除去債務	1,985	—
その他	906,459	843,930
流動負債合計	5,940,349	8,286,230
固定負債		
長期借入金	600,000	666,000
退職給付引当金	504,214	495,981
資産除去債務	136,321	136,317
その他	199,319	198,305
固定負債合計	1,439,854	1,496,605
負債合計	7,380,203	9,782,835
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,917,652	4,917,652
資本剰余金	5,644,906	5,644,906
利益剰余金	11,059,071	11,315,230
自己株式	△654,500	△654,641
株主資本合計	20,967,129	21,223,148
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△68,856	237,820
繰延ヘッジ損益	△6,332	34,762
為替換算調整勘定	8,305	117,232
その他の包括利益累計額合計	△66,883	389,815
純資産合計	20,900,246	21,612,963
負債純資産合計	28,280,450	31,395,798

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)
売上高	12,358,411	12,774,488
売上原価	6,355,482	6,508,621
売上総利益	6,002,929	6,265,867
返品調整引当金戻入額	32,000	29,000
返品調整引当金繰入額	31,000	30,000
差引売上総利益	6,003,929	6,264,867
販売費及び一般管理費	※1 5,278,332	※1 5,494,535
営業利益	725,596	770,331
営業外収益		
受取利息	11,035	8,225
受取配当金	13,431	15,181
受取補償金	16,294	11,951
その他	11,908	32,966
営業外収益合計	52,670	68,325
営業外費用		
支払利息	12,581	10,930
賃貸借契約解約損	4,770	—
為替差損	3,343	—
その他	598	637
営業外費用合計	21,293	11,568
経常利益	756,972	827,089
特別損失		
固定資産除却損	7,165	38,127
投資有価証券評価損	38	—
減損損失	※2 8,114	※2 24,998
特別損失合計	15,317	63,126
税金等調整前四半期純利益	741,654	763,963
法人税、住民税及び事業税	306,274	327,480
法人税等調整額	42,672	△11,440
法人税等合計	348,946	316,039
少数株主損益調整前四半期純利益	392,707	447,923
少数株主利益	—	—
四半期純利益	392,707	447,923

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	392,707	447,923
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	82,989	306,676
繰延ヘッジ損益	24,441	41,095
為替換算調整勘定	36,585	108,926
その他の包括利益合計	144,016	456,698
四半期包括利益	536,724	904,622
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	536,724	904,622
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	741,654	763,963
減価償却費	171,606	169,587
減損損失	8,114	24,998
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△1,000	1,000
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	2,905	2,853
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△358	△22,102
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△6,578	△8,232
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△7,799	△9,389
受取利息及び受取配当金	△24,467	△23,406
支払利息	12,581	10,930
投資有価証券評価損益 (△は益)	38	—
固定資産除却損	7,165	38,127
売上債権の増減額 (△は増加)	△78,182	△42,113
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△599,146	△660,742
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,028,997	2,119,560
その他の資産の増減額 (△は増加)	△4,519	14,417
その他の負債の増減額 (△は減少)	5,102	△58,398
その他	2,631	7,215
小計	2,258,745	2,328,268
利息及び配当金の受取額	30,233	23,022
利息の支払額	△12,727	△11,248
法人税等の支払額	△384,901	△79,769
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,891,350	2,260,272
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△25,605	△14,731
定期預金の払戻による収入	25,605	14,731
有価証券の取得による支出	△602,095	—
有価証券の売却及び償還による収入	800,000	100,000
有形固定資産の取得による支出	△82,318	△168,317
無形固定資産の取得による支出	△6,305	△10,338
投資有価証券の取得による支出	△403,158	△102,710
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	100,000
差入保証金の差入による支出	△3,726	△85,250
差入保証金の回収による収入	8,117	59,631
その他	△6,478	△3,591
投資活動によるキャッシュ・フロー	△295,964	△110,577
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300,000	200,000
長期借入金の返済による支出	△305,660	△91,660
自己株式の取得による支出	△113	△140
配当金の支払額	△170,499	△191,764
その他	△2,344	△2,909
財務活動によるキャッシュ・フロー	△178,618	△86,474
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,727	25,786
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,423,495	2,089,007
現金及び現金同等物の期首残高	8,159,038	8,516,897
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 9,582,533	* 10,605,905

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度
(平成24年8月31日)

当第2四半期連結会計期間
(平成25年2月28日)

(四半期連結損益計算書関係)

※1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
職員給料	2,216,580千円	2,260,962千円
賃借料	568,481	554,843
減価償却費	133,099	133,515
退職給付費用	148,950	163,877
賞与	114,873	110,009
賞与引当金繰入額	109,801	107,440

※2. 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)

場所	用途	種類
茨城県 つくば市	店舗資産	建物及び構築物

当社グループは、継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分により資産のグルーピングを行っており、店舗資産及び賃貸用資産について個別物件をグルーピングの最小単位としております。ただし、本社資産等については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。

店舗における営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなる見込であるもの、または閉鎖が決定している店舗の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に8,114千円（建物及び構築物8,114千円）計上しております。

なお、減損損失の測定における回収可能価額は使用価値によっておりますが、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから、当該店舗資産の帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。

当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)

場所	用途	種類
神奈川県 横浜市青葉区他2件	店舗資産	建物及び構築物、有形固定資産のその他（工具、器具及び備品）

当社グループは、継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分により資産のグルーピングを行っており、店舗資産及び賃貸用資産について個別物件をグルーピングの最小単位としております。ただし、本社資産等については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。

店舗における営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなる見込であるもの、または閉鎖が決定している店舗の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に24,998千円（建物及び構築物23,811千円・有形固定資産のその他1,186千円）計上しております。

なお、減損損失の測定における回収可能価額は使用価値によっておりますが、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから、当該店舗資産の帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)
現金及び預金勘定	4,194,964千円	3,866,881千円
預金のうち預入期間が3ヶ月を超える定期預金等	△51,211	△203,117
有価証券勘定に含まれている追加型公社債投資信託	5,438,780	6,942,140
現金及び現金同等物	9,582,533	10,605,905

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年2月29日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月25日 定時株主総会	普通株式	170,499	8	平成23年8月31日	平成23年11月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年4月6日 取締役会	普通株式	191,809	9	平成24年2月29日	平成24年4月27日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月22日 定時株主総会	普通株式	191,764	9	平成24年8月31日	平成24年11月26日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年4月5日 取締役会	普通株式	170,454	8	平成25年2月28日	平成25年4月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成24年2月29日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	繊維製品製造販売業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,239,507	118,904	12,358,411	—	12,358,411
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,239,507	118,904	12,358,411	—	12,358,411
セグメント利益	1,008,770	43,968	1,052,739	△327,143	725,596

(注) 1. セグメント利益の調整額△327,143千円は、各報告セグメントに配分していない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成25年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	繊維製品製造販売業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,679,690	94,798	12,774,488	—	12,774,488
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,679,690	94,798	12,774,488	—	12,774,488
セグメント利益	1,079,695	26,408	1,106,104	△335,772	770,331

(注) 1. セグメント利益の調整額△335,772千円は、各報告セグメントに配分していない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)
1株当たり四半期純利益金額	18円43銭	21円2銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	392,707	447,923
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	392,707	447,923
普通株式の期中平均株式数(千株)	21,312	21,306

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成25年4月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………170,454千円

(ロ) 1株当たりの金額……………8円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成25年4月26日

(注) 平成25年2月28日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年4月4日

ヤマト インターナショナル株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉村 祥二郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 長野 秀則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているヤマト インターナショナル株式会社の平成24年9月1日から平成25年8月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年12月1日から平成25年2月28日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年9月1日から平成25年2月28日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ヤマト インターナショナル株式会社及び連結子会社の平成25年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。